

## 頭を空にする、最良の方法

再三書いていることだが、いまの日本ちょっとおかしい。元気がない。4日夜テレビ東京で、「サウンドオブミュージック」が放送された。リメイクDVD新装版であるようだ。マリア役のジュリー・アンドリュースが可愛いし、ザルツブルク郊外の大自然は素晴らしい。

シャープベルグには2回、あの蒸気機関車に乗って登ったが、映画を見ているとまた行ってみたいくなる。終了後、閉塞感のあるいまの時代にぴったりの映画であると、良くテレビに出ている大人気の評論家、池上さんがまたまた登場して、そんな風に解説していた。うーん、そうかも知れない。

次の話しは、余りにおかしいので、あっちこっちで紹介している。夾竹桃伐採指示と、伐採指示取消の話しだ。そのたくましい生命力から、夾竹桃は再生のシンボルとして広島市の「市花」に制定されている。しかし、葉などに毒がある。

某市の小中学校には、計600本の夾竹桃がある。生徒が誤って口にすると危険だから、伐採して欲しいという匿名のメールが某市教育委員会に入った。教育委員会は即座に反応して、管内の小中学校に夾竹桃の伐採指示を出した。

生徒に注意すれば済むこと、という反論のメールがすぐに入った。自明の話しである。教育委員会は、即座に伐採指示取消しの指示を出した。個人情報保護法に始まって、もぐら叩きのような現象がなぜ起きるのか。

答えは簡単、現代社会がコンピューターに乗っ取られてしまっているからだ。垂れ流される膨大な量の情報に、取捨選択する術もなく、頭の中がパンパンに膨れ上がって、なにも考えられなくなっているからだ。日本人みんなが、パソコンと睨み合っただけで部屋に閉じ籠っていても、日本の元気がなくなって当然だ。社会全体に閉塞感が漂ってくる、ということだろう。

なによりもまず、頭を空にしなければいけない。頭を空にする最良の方法、それは山に登ること、である。昨年末、北八ヶ岳のしらびそ小屋に泊まり、翌日中山峠を越えパノラマコースを辿って、渋・辰野館に下った。毎年実施している遠足倶楽部恒例のクリスマスイベントだ。

しらびそ小屋に入ったら、中山峠はトレースがないよ、と言われる。十数年通っていて、初めてのこと。非常にラッキーなことだと思った。

翌朝、一番に小屋を出る。峠に差し掛かると傾斜が増してきて、本格的なラッセルになる。無我夢中でラッセルしていると、いつしか頭が空になっている。生命エネルギーもたっぷり充填されて、自分で自分の元気を感ずる。

頭が空になれば、新しいアイデアが湧いてくる。他人を思いやる余裕も出てくるといふものだ。日本の元気を取り戻す、一億二千万人総登山者化計画、強力推進の年にしたい。